

金田地区で使用された農業用水の大部分が、鈴川へ落とされています。鈴川の流路について、「新編相模国風土記稿」の記述を記します。



＜新編相模国風土記稿 巻の四十二 村里部 大住郡一＞

○ 鈴川（寸々可波 ○大山川附）

源ハ、大山ノ溪間所々ヨリ出ル清水一流トナリ、大山川ト称シ串橋村ニ至リ始テ鈴川ト名ツク。南原村ニ至リテ玉川ニ合ス。水路四里十九町餘（幅三間ヨリ八間餘）此川ヲ分派シテ田間ノ用水トスル村々（上粕谷、三之宮、串橋、神戸、長持、丸島、大畑、西海地、矢崎、北大縄、豊田、寺田縄、平等寺、入野、南原、城所、宮下、小峯、大匂、上下子安）アリ。水除ノ堤ヲ設ク（高七、八尺）

- * 水源は、大山の山間部（坂本村）で、大山川と呼ばれています。伊勢原の串橋村で鈴川と呼ばれ、下って、平塚の南原村で玉川（現・渋田川）と合流しています。

● 鈴川に流入する主な河川（鈴川の支流）

① 渋田川水系

○ 玉川（太満可波）

名鈔愛甲郡ノ郷名玉川ハ、此川ニ依テ得タル名ナリ。又旧本ニ、当国東ハ玉川ニ限ルト記シタルモ此ノ川ナルヘシ。源ハ、日向村山中ヨリ出、愛甲郡ニ沃キ、又本郡石田上落合両村ノ境ニ入、数村ヲ流シ南原村ニテ鈴川合シ、是ヨリ下流ヲ新川ト呼ビ、末ハ金目川ニ合ス。水路三里廿町許（幅四間ヨリ八間ニ及ブ）此川水ヲ引テ田間ニ沃ク所六村（本郡石田、上下落合、下津古久、長沼、古稲葉）アリ。川ニ添テ堤ヲ築キ水溢ニ備フ。

- * 玉川・渋田川・歌川の三川が合流し、現在は渋田川として流下し、南原村で鈴川と合流しています。
- * 「下流ヲ新川ト呼ビ」：享保7（1722）玉川の水抜飯川として堀替えた時に新川と呼ばれていました。

○ 渋田川（志賦他加波）

源ハ、日向村山中字渋田山ヨリ湧出スルヲ以、名ツク。水路四里七町許ヲ流シ、大島

村ニテ玉川ニ合ス（幅 四、五間）但、西富岡村ニテハ弓張川ト唱ヘリ。此水流ヲ引ハ村（西富岡、上下糟屋、大島、田中、上谷、下谷、小鍋島）ノ用水トナセリ。 堤ヲ設ク（高一丈）

○ 歌 川（宇太加波）

源ハ、東富岡村ヨリ出、大島村ニ至テ玉川ニ合ス。水路二里二十四町許（幅 八尺ヨリ二間ニ至ル）此水ヲ田間ノ用水トナス村（下糟屋、東富岡、粟久保、高盛、四村）アリ。爰ニモ堤ヲ設ク（高七尺）

■ 鈴川への流れ

- * 渋田川・歌川の二河川が玉川に流入し、水源の異なる三つの河川が、大島村で合流しています。（三川合流）（合流後の河川の現在名は、渋田川と呼ばれています）
- * 玉川（現在名渋田川）は南原村で鈴川と合流し、後に、鈴川が金目川と合流し、相模湾に流入しています。

② 鈴川水系

○ 大根川（於保禰可波）

源ハ、南北矢名ニ村ヨリ出ル小流、合シテ一筋トナリ眞田村ニ至リ、此川名ヲ得。末ハ、鈴川ニ合ス。水路一里十六町餘（幅三、四間） 堤 アリ

○ 板戸川（伊多度可波）

源ハ、板戸村字毘沙門池ヨリ出。三十町餘ヲ流シテ鈴川ニ合ス（幅二間許）堤 アリ。

○ 善波川（世牟婆可波）

善波村山中、駒ヶ嶽ノ下流ニテ、水路一里餘。丸島村ニ至テ大根川ニ合ス（幅 九尺ヨリ二間ニ至ル） 堤 アリ。

- * 善波川は大根川へと流れ、その後、鈴川と合流しています。板戸川も鈴川と合流しています。

＜新編相模国風土記稿 巻の五十一 村里部 大住郡巻之十 糟屋庄＞

● 坂本村（佐可毛度牟良）

○ 大山川

大山溪間ノ清水、及び山中瀧水等落合テ一流トナリ。人家ノ背後ヲ流ル石川ナリ（幅四間） 橋十一ヲ架ス（内二八、長六間 二八、五間其餘ハ小橋ナリ）

＜新編相模国風土記稿 巻の五十 村里部 大住郡巻之九 糟屋庄＞

● 上子安村（加美古也須牟良）

○ 大山川

村ノ中程ヲ流ル（幅四五間） 板橋二ヲ架ス（共二長五間）

＜新編相模国風土記稿 巻の五十 村里部 大住郡巻之九 糟屋庄＞

● 三ノ宮村（佐無能美也牟良）

○ 大山川

東方ヲ流ル（幅六間） 橋六（長各六間）ヲ架ス。又堰ヲ五ヶ所（宮面堰、竹ノ内堰、伯母様堰、上原田堰、下原田堰等ナリ。此中、伯母様堰ヨリ引水路狐橋ノ中程ヲ流ル。初川用水ト呼ブ）ニ設ケ田間ノ用水ニ注ク。流末鈴川ト唱ヘ、飛地狐橋ノ西方ヲ流ル、爰ニ、堤アリ（高九尺）

● 神戸村（加宇登牟良）

○ 鈴 川

村の中程をヲ流シ串橋村へ注キ復村内ニ入レリ（幅八間）、板橋（長八間）一ヲ架ス、堤（高九尺）アリ

● 串橋村（久志波之牟良）

○ 鈴 川

東方ヲ流ル（幅七間）堤（高九間）ヲ設ク

<新編相模国風土記稿 巻の五十二 村里部 大住郡巻之十一 波多野庄>

● 曾谷村（楚也牟良）

○ 大山川

北辺ヨリ来ル（幅四間）

* 曾谷村は、東部に位置する善波峠に現わされるように、尾根で隔絶され、それより東部に位置する大山川は流れていません。誤記と思われます。

○ 金目川

中程ヲ流ル（幅十二間） 板橋四ヲ架ス（共二長四五間）

<新編相模国風土記稿 巻の四十七 村里部 大住郡巻之六 糟屋庄>

● 西海知村（佐伊加千牟良）

○ 鈴川

居村ノ南方ヲ流ル（幅七間） 板橋ヲ架ス（長七間） 堤アリ（高五尺）

○ 用水二

一八、谷田用水ト唱フ（大畑村二堰ヲ設ケ 鈴川の水ヲ引） 一八、中沢堀ト唱フ（金目川藤間堰ノ水ヲ引）

● 矢崎村（也左幾牟良）

○ 鈴川

村ノ中程ヲ流ル（幅七間三尺） 橋 二（一八、長九間、一八、十間）ヲ架ス。
堤 二ヶ所（一八、高九尺、一八、扣堤ナリ 高同上）アリ

* 「扣堤（ひかえつつみ）」：控え土手

● 大畑村（於保波太氣牟良）

○ 鈴川

南方ヲ流ル（幅七間） 寛永二年、川筋堀替アリ（此時、村高七石二斗八升餘減ズ）
板橋 三ヲ架ス（一八、長九間、二八、八間） 入樋 二アリ（一八、矢崎、城所、大
匂、西海地、入山瀬、五村用水ノ元ナリ。一八、豊田村用水ノ引口ナリ）
兩岸二堤アリ（共二、高八尺）寛永四年官ヨリ築カル。

● 丸島村（麻留志麻牟良）

○ 鈴川

中程ヲ流ル（幅八間） 両岸二堤ヲ設ク（高一丈二尺） 板橋ヲ架ス（長九間）

● 北大繩村（幾多於保奈牟良）

○ 鈴川

村ノ東北ノ界ヲ流ル（幅八間餘） 堤ニヶ所（一八、高一丈、一八、扣堤ナリ）アリ。

* 「扣堤（ひかえつつみ）」：控え土手

<新編相模国風土記稿 卷の四十三 村里部 大住郡卷之二 豊田庄>

● 豊田本郷村（凶與駄保無加宇牟良）

○ 鈴川

村ノ西界ヲ流ル（幅六間） 川二傍テ堤アリ（高一丈二尺）

● 平等寺村（備也宇腎宇茲牟良）

○ 鈴川

西界ヲ流ル（幅六間） 両岸二堤アリ（高一丈）

<新編相模国風土記稿 卷の四十八 村里部 大住郡卷之七 糟屋庄>

● 中原上宿（奈可波良加美之久） ● 中原下宿（奈可波良志毛之久）

○ 玉川

西北ノ方下宿ヲ流（幅八間） 古ハ平等寺境を流シ、入野村境ニ至リ南流シテ金目川ニ合セシヲ、水理不便ナルニヨリ、享保七年、今ノ如ク水路ヲ改メラル。土橋一ヲ架ス（長十間大繩橋ト呼ブ）

○ 鈴川

是モ下宿ヲ流シ、南原村境ニテ玉川ニ合ス（幅六間） 両岸二堤アリ（高九尺）又、此川ヲ堰入テ、字川久保ニ水車ヲ設ク（文政十一年公ニ願テ始テ造ル、村民清右衛門、又之丞二人ノ持）

* 鈴川は「南原村境ニテ玉川ニ合ス」。玉川（現・渋田川）は「入野村境ニ至リ南流シテ金目川ニ合セシ」：鈴川が玉川に合流して、後に玉川が金目川に合流しています。

* 「字川久保ニ水車ヲ設ク」：鈴川の水を利用し水車が設けられていました。他方、現在の入野・長持村境で、金目川の旧河川と云われていた、水路が鈴川へ落ち込む手前にも水車がありました。